

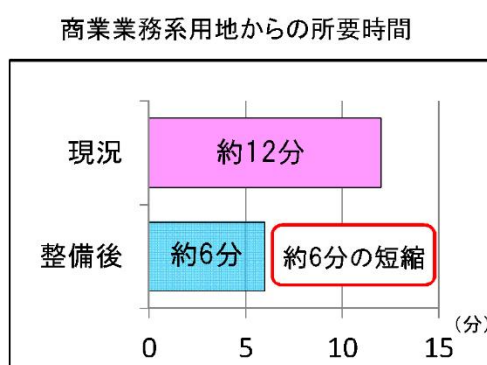
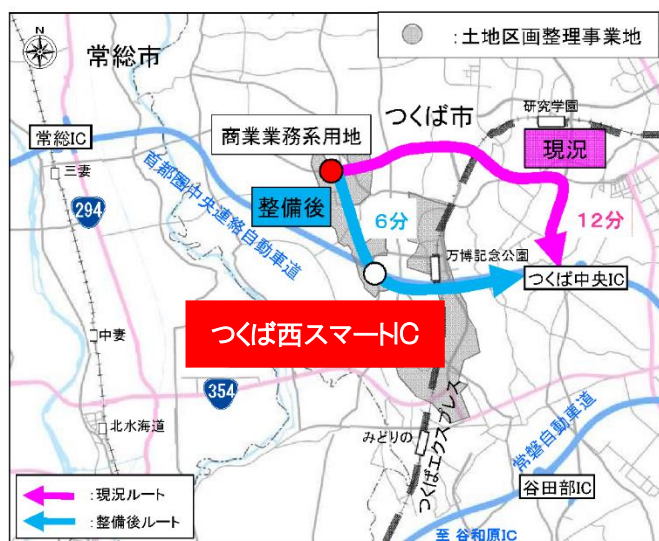
## つくば西スマートICの整備により期待される効果

### ①地域の活性化

つくば西スマートICの整備により、つくばエクスプレスの沿線開発による土地区画整理事業地から圏央道へのアクセスが向上し、更なる企業や商業施設の誘致が進み、雇用の創出による地域の人口の更なる定着など本地域の活性化が期待されます。

【効果例】商業業務系用地からつくば中央ICへのアクセス時間の短縮

○整備前:約12分 → 整備後:約6分(約6分の短縮)



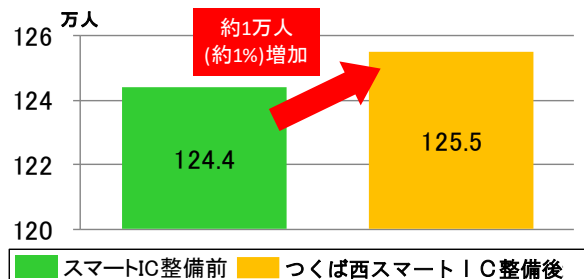
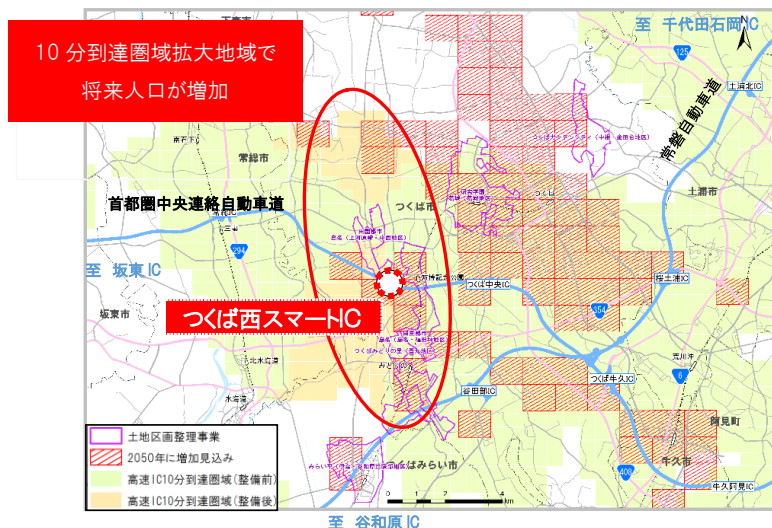
### ②利便性の向上

圏央道 常総IC～つくば中央IC間のIC間距離は約11kmあり、圏央道の中でも2番目に長い区間となっています。

つくば西スマートICの開通により、常総IC～つくば西スマートIC間が約7km、つくば西スマートIC～つくば中央IC間が約4kmとなります。これにより、各ICへの10分到達圏域は約1万人増加し、その10分到達圏域の拡大地域で将来人口の増加が見込まれるなど、つくば市西部地区などの利便性が向上します。

【茨城県の将来推計人口と高速IC 10分到達圏域】

【各ICへの10分到達圏域人口】

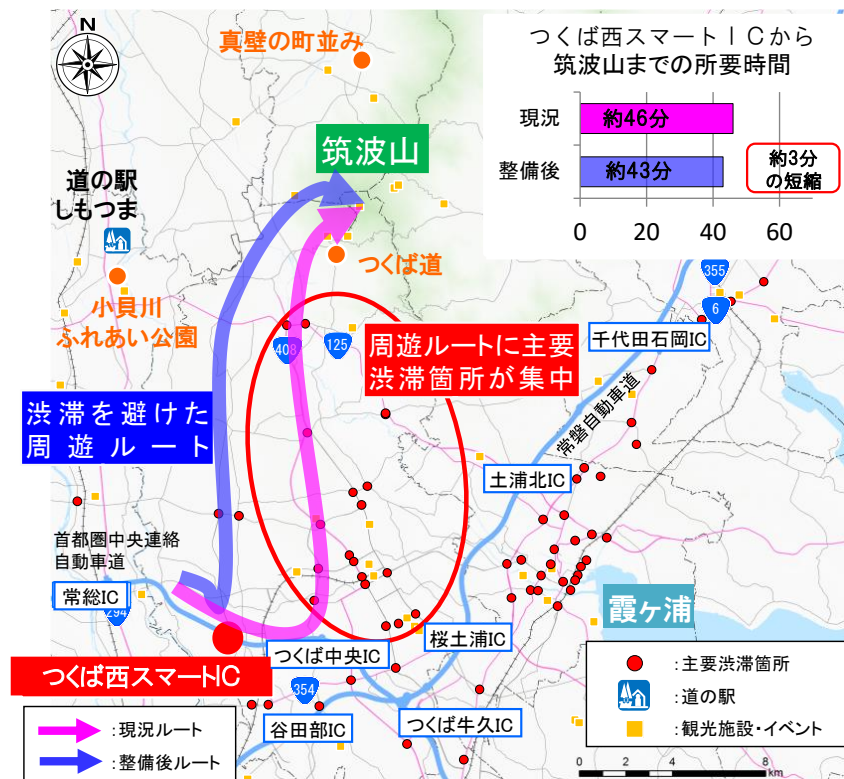


※茨城県内全ての高速ICへの10分到達圏域人口を算出

出典: 将来人口=国立社会保障・人口問題研究所(平成24年1月推計)  
到達圏域=H27 道路交通センサス混雑時旅行速度を使用

### ③観光振興への寄与

つくば西スマートICの整備により、県外から筑波山周辺地域への来訪者に対し、渋滞を回避した周遊ルートが確立されることにより、観光地へのアクセス性が向上し観光振興に寄与します。

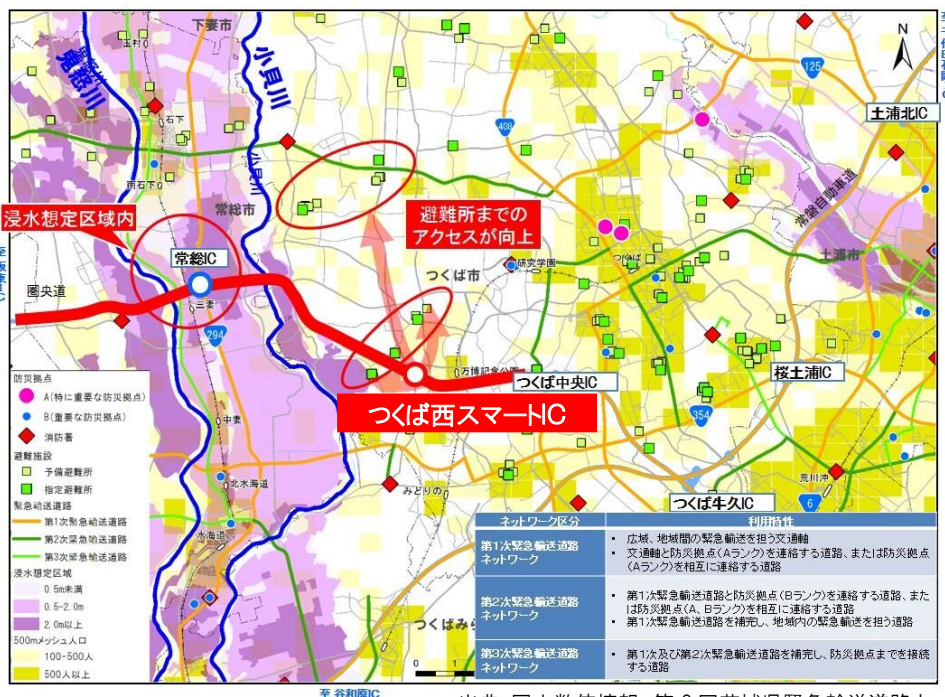


筑波山:来訪者207万人/年  
出典:つくば市

### ④災害時の信頼性の高いネットワークの形成

隣接する常総ICが鬼怒川および小貝川の浸水想定区域になっており、つくば西スマートICの整備により、災害が発生した際の救援活動や緊急物資輸送の迅速化が期待され、リダンダンシーを確保した信頼性の高いネットワークの形成に寄与します。

また、つくば西スマートIC周辺地域の指定避難所に対して、第1次緊急輸送路である圏央道へのアクセスが容易となることにより防災機能の強化に寄与します。



出典:国土数値情報、第2回茨城県緊急輸送道路ネットワーク計画等策定協議会